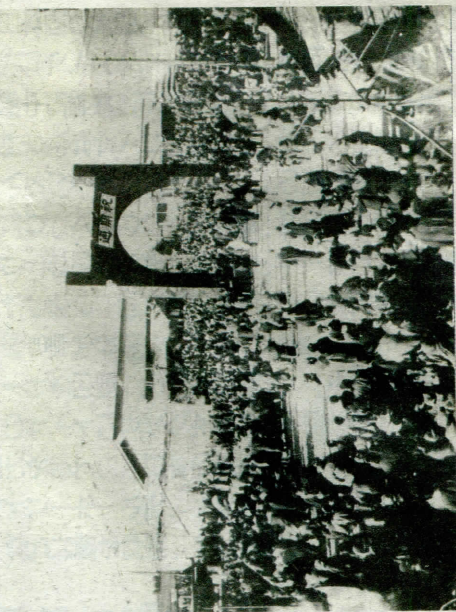


当時の様子、歴史伝える

1905(明治38)年11月25日、開通式
当日の上諏訪駅前(諏訪市博物館所蔵)



諏訪市博物館(同市中洲)は、JR 中央東線富士見駅—岡谷駅間の開業120周年記念特別展「諏訪に汽笛が響いて120年」を同館で開いている。同館が所蔵する開業当時の写真や手紙、図面、新聞、鉄道関連物品など約80点を解説付きで展示。開通に至るまでの関係者の苦労や地元住民の期待、機関区(蒸気機関車の車両基地)があったかたつの上諏訪駅の様子などを伝えている。12月14日まで。(山本雄太)

中央東線開業や上諏訪駅の歴史を知る
ことができ、写真や鉄道関連品が並ぶ展示室

同館によると、1892(明治25)年に鉄道敷設法が公布され、中央線の建設が決定。各地の熱心な誘致運動と議論の末、中央線は「八王子から甲府を経て上諏訪、岡谷、塩尻から木曾へ出る」という建設計画となった。工事は96(明治29)年4月に始まり、難航しながらも進められ、1903(明治36)年12月には塩尻駅まで開通した。

しかし、翌04(明治37)年2月に日露戦争が開戦。全国で進められていた鉄道工事は、その資金を軍事費に回す

ため中断された。中央線は富士見駅までの工事が残りわずかであったことから、戦時下も工事継続が許され、同年12月に富士見駅まで開通することができた。

工事中止の運達は、岡谷駅までの路盤がおおよそ完成し、レールの敷設工事が始まろうとしていた時で、開業を長年待ちわびていた諏訪の人々は大きく落胆した。

中止決定後、地元製の糸企業家や上諏訪町長らが中心となり「中央線鉄道速成同盟会」が結成され、工事継続を



国に請願。鉄道公
引き受けることで
37)年6月に工事
った。翌05(明治
に工事が再開し、
崩れによる中断も
同年11月25日に開
展示では、当時
係者の手紙、図面
の経過を解説。開
南信日日新聞(現
は、青柳駅から岡
5駅それぞれの開
て掲載し、鉄道開
時の様子を伝えて
他、開通時の時刻
制服、上諏訪駅の
る写真なども並べ
道友の会長野支那

倶楽部が協
同館は
に貢献し、
を支える鉄
は大きな
た。展示は
道や上諏訪
知っては
掛けてい
同館では
イベント
に諏訪市
存・展示
気機関車
地見学会
紙の列車
1クワ
6、7日
人気の模
行つ。
開館時
午後5
(祝日の